

学者が多く、男女とも就職率は九〇%を超えている。

(二) 産業別就職状況 (表5参照)
全体では製造業と卸売小売業の二部門で七千三百八十三人となり、全体の五九・八%を占めている。これにサービス業を加えると、全体の七〇%を超え、いわばベスト3といえる。

(三) 職務別就職状況 (表6参照)
この統計では、技能生産工程作業者事務、販売の三分野が際立って多く、合計で九千六百三人、全体の七七・八%に達している。前年度から大きく変化したのは、技能生産工程作業者が前年度の三千三人から四千三十二人へと千人以上の増加となったことである。

(四) 地区別就職状況 (表7参照)
全日制では、県内就職者が六千六百四十九人で、男女とも過半数となった(男子五三・五%、女子五四・二%)。このことは、本県職業安定行政における年来の目標値であっただけに、本年度統計において画期的な数値であるといえよう。

このような県内定着率の上昇傾向は石油ショック以後の不況慢性化の中でも徐々に見られたところであるが、その男女間較差、学科別較差が急速に縮まってきている点も見逃がせない。五年前には、男子全体の三分の二が、工業科全体の四分の三が、県外就職者であったことを見ても、この変化の大きさがうかがわれよう。

表1 昭和52年3月公立高等学校卒業生進学状況(実数) (昭和52年4月15日現在)

区分	卒業生数	大学進学者数	大学進学者の内訳						各種学校進学者数	進学者数	次年度進学者希望者数(浪人)	
			国立Ⅰ期	国立Ⅱ期	公立	準大学	私立	短期				
普通科	男女	6,281	2,381	253	377	39	7	1,600	105	365	2,746	1,852
		8,089	2,822	56	179	11	1	908	1,667	1,318	4,140	426
	計	14,370	5,203	309	556	50	8	2,508	1,772	1,683	6,886	2,278
農・水科	男女	1,498	64	2	2	-	-	33	27	163	227	2
		327	16	-	-	-	-	-	16	40	56	-
	計	1,825	80	2	2	-	-	33	43	203	283	2
工業科	男女	2,934	276	2	6	-	-	230	38	138	414	157
		224	19	-	-	-	-	2	17	9	28	-
	計	3,158	295	2	6	-	-	232	55	147	442	157
商業科	男女	1,344	238	-	-	-	-	196	42	92	330	117
		1,447	118	-	-	-	-	11	107	82	200	5
	計	2,791	356	-	-	-	-	207	149	174	530	122
家庭科	女	1,297	122	-	-	-	-	4	118	135	257	2
理数科	男	155	65	5	18	1	1	38	2	2	67	83
全日制合計	男女	12,212	3,024	262	403	40	8	2,097	214	760	3,784	2,211
		11,384	3,097	56	179	11	1	925	1,925	1,584	4,681	433
	計	23,596	6,121	318	582	51	9	3,022	2,139	2,344	8,465	2,644
定時制合計	男女	522	21	-	1	-	-	10	10	12	33	-
		461	22	-	-	-	-	-	22	32	54	-
	計	983	43	-	1	-	-	10	32	44	87	-
通信制合計	男女	45	3	-	-	-	-	1	2	1	4	-
		118	4	-	-	-	-	2	2	12	16	-
	計	163	7	-	-	-	-	3	4	13	20	-

表2 全日制進学率

(1) 男女別 () 内は前年3月

種別 男女別	国立Ⅰ期	国立Ⅱ期	公立	準大学	私立	短期	計	各種学校	次年度進学者希望者(浪人)
男	2.1 (2.1)	3.3 (3.0)	0.3 (0.4)	0 (0)	17.2 (17.7)	1.8 (1.5)	24.8 (24.9)	6.2 (6.7)	18.1 (19.2)
女	0.5 (0.4)	1.6 (1.9)	0.1 (0.2)	0 (0)	8.1 (8.0)	16.9 (16.8)	27.2 (27.3)	13.9 (13.9)	3.8 (5.2)
計	1.3 (1.3)	2.5 (2.5)	0.2 (0.3)	0 (0)	12.8 (13.0)	9.1 (8.9)	25.9 (26.1)	9.9 (10.2)	11.2 (12.4)